

**(仮称) 駅前図書館
基本計画**

平成27年11月

那須塩原市

目次

1. はじめに	1
1-1. 計画の目的	1
1-2. 計画地の概要	2
1-3. 市民等からの提言	4
2. 施設の基本的考え方	6
2-1. 基本コンセプト	6
2-2. 基本方針	7
3. 施設計画の考え方	9
3-1. 導入機能	9
3-2. 整備に当たっての前提条件及び配慮事項	11
3-3. 整備スケジュール（予定）	13

1. はじめに

1-1. 計画の目的

黒磯駅周辺は、市内の中でも人口減少と高齢化が急速に進んでいる地区となっており、この地区の都市機能を維持し継続していくためには、これまでの取り組みだけでなく、人口減少を前提とした都市政策への転換が必要な局面を迎えています。

また、本地区は、この地域を訪れる人たちの第一印象を決める街のシンボルであると共に、地域交流の核となる場所であることから、地区の個性を活かした街の魅力発信とコミュニティの再生を図り、行政と市民が一体となって駅周辺のにぎわいを創出することで、駅を中心として都市を再興することを目指しています。

この状況を踏まえ、コンパクトで持続可能な都市構造に転換を図っていくために、地域の核である黒磯駅周辺を中心拠点区域に位置付けた都市再生整備計画（黒磯駅周辺地区）を平成 26 年 3 月に策定し、平成 30 年度末までに各種の施設を整備していくことを決定しました。

この計画では、都市機能を向上させることでまちなかへの居住を促進し、徒歩や自転車で暮らせるコンパクトなまちとして再構築を図ることとしています。その中で、（仮称）駅前図書館は、従来の図書館としての機能だけでなく、地域住民同士はもちろん、地域住民と観光客の交流の場、まちの魅力の発信拠点などの機能を併せ持った総合的な交流拠点として、近傍に整備される予定の（仮称）まちなか交流センターと並び、地域にとって非常に重要な意味を持っています。

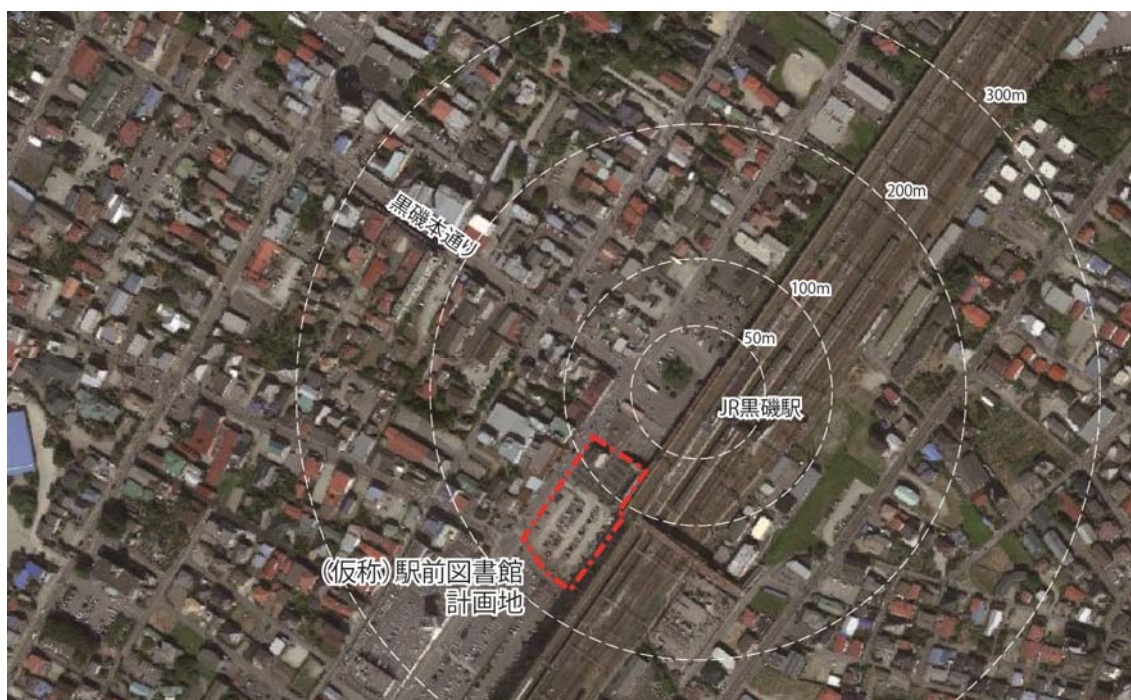
当該施設のあり方を検討するに当たっては、地域住民との話し合いを行い、事業に対する理解を深めると共に、市民の意見を集約する取り組みや、外部有識者らによる事業への提言をもらう取り組みなど、計画をより実効性のあるものにするための施策を継続して実施してきており、市民自らが主体的に関わる意識が醸成されつつあります。

この「（仮称）駅前図書館基本計画」は、上記の使い手・担い手・専門家等の意見を踏まえ、（仮称）駅前図書館の施設整備やそこで展開される活動イメージの基本的な考え方を取りまとめたものとなっており、今後の設計・施工・運営各フェーズにおいて、立ち戻るべき「交流の場のあり方」の大原則を示しています。この大原則を常に参照しながら、市民・行政・関係者が一丸となって、黒磯のまちを将来にわたっていきいきとさせる交流空間を練り上げていくことを期待します。

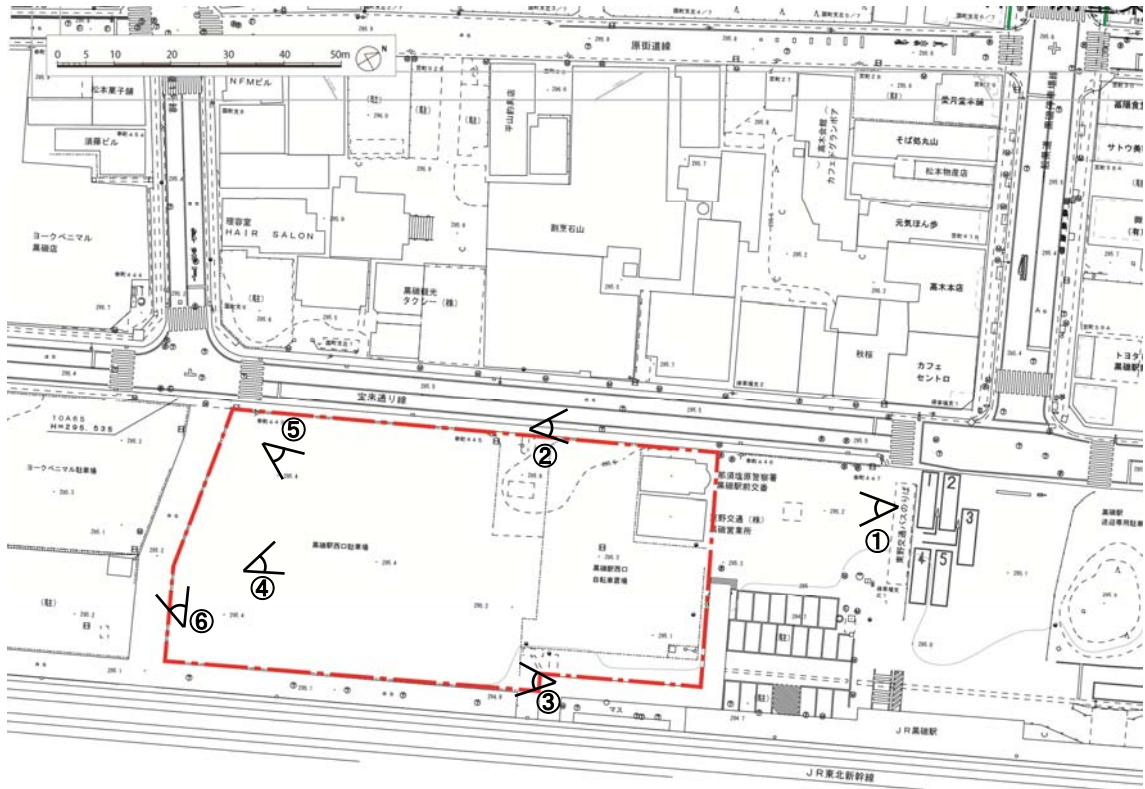
1-2. 計画地の概要

(仮称) 駅前図書館の計画地の概要は、以下の通りです。

- ・ 計画予定地 : 那須塩原市本町 40-442 番地 他 (JR 黒磯駅より約 75m)
- ・ 敷地面積 : 約 4,000 m² (施設駐車場、黒磯駅西口駐輪場を含む)
- ・ 地域地区 : 商業地域
建築基準法第 22 条に基づく指定区域
- ・ 建ぺい率 : 80%
- ・ 容積率 : 400%
- ・ 前面道路 : 市道宝来通り線
黒磯駅西口広場 (市道宝来通り線及び市道旭通り線の一部)
- ・ その他の法規制 : 現在、計画地を含む黒磯本通り周辺地区では、街なみ環境整備事業の検討が行われており、周辺の街並みとの調和に留意することが求められます



計画地位置図



計画地現況図



①西口広場から敷地を見る



②西側前面道路（宝来通り線）



③黒磯駅東西連絡通路から南側を見る



④計画地南側から駅前交差点方向を見る



⑤計画地南側から東西連絡通路方向を見る



⑥計画地南側から西側を見る

1-3. 市民等からの提言

(1) 黒磯駅前及び周辺地域活性化懇談会 7つのポイント

様々な見地からコンセプトや具体策についての意見を集約し、広域的視点からも一体感をもって黒磯駅前及び周辺地域の活性化を図るべく、平成 25 年度、市内経済団体等の代表者や有識者からなる「黒磯駅前及び周辺地域活性化懇談会」が設置され、全 5 回の懇談会が開催されました。

多様なバックグラウンドを有する委員からの意見を基に、整理された「7つのポイント」の中から（仮称）駅前図書館や駅周辺のまちづくりのあり方に関連する部分を抜粋し、以下に整理します。



①駅周辺の基本的な考え方

「駅・ロータリー・駐車場・駐輪場～広場・図書館～東西連絡通路」を 1 つの空間として考え、交流センターとの調和を意識した景観デザインを行う。ターゲットは定住者・観光客・中間者を意識しつつ、回遊性を持たせる。

また、この空間を起点とし、(1) 青木・戸田から板室、(2) 那須湯本、(3) 那珂川河畔公園、(4) 駅周辺等への人の流れをつくりだすことも同時に意識する。

②駅前図書館や駅周辺のまちづくりに関する委員意見

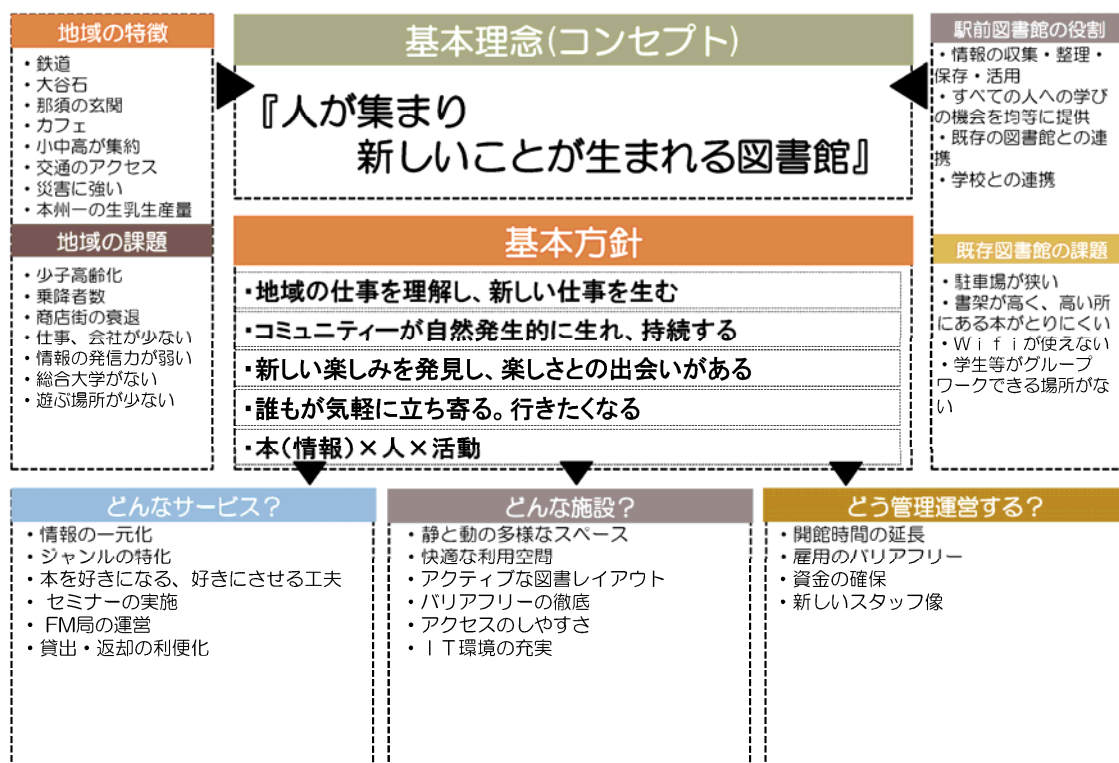
- ・観光情報や歴史・文化情報の収集・発信や地域の芸術家の周知等インフォメーションセンター機能の充実
- ・アートのコンテンツ（アート関係専門書ラインナップ等）の充実
- ・市民が集まる場所としてのカフェ、子供が雨の日でも遊べるゾーン等の市民向け機能の充実
- ・公園のような使い方が可能な駅前広場の整備
- ・図書館と東西連絡通路の接続
- ・地域のハブとしての駐車場整備

(2) えきっぷくろいそからの提言

これまでも、商店街の有志で構成される「黒磯駅前活性化委員会」により、「黒磯駅前キャンドルナイト」、「もったいない市」、「年金セール」等の定期的なイベントの開催やまちなか拠点（カワッタ家）の整備等が行われてきました。

これにあわせて更に、都市再生整備計画事業等に基づく駅周辺整備を契機に、平成 26 年度より開催されているこれからの黒磯駅前のあり方を話し合うワークショップ「えきっぷくろいそ」の議論を踏まえ、平成 26 年 12 月には、24 項目からなる黒磯駅前活性化案に対して、賛成・反対を投票するまちづくり市民投票が実施されました。その結果を受けつつ、今年度（平成 27 年度）は、駅前図書館・交流センター・空き家活用の 3 つのテーマごとに部会を立ち上げ、ワークショップ

を通じて、駅周辺を中心とした黒磯地区の活性化のあり方について、継続的な議論を続け、「えきっぷくろいそ駅前図書館基本計画」がまとめられました。以下にその概要を示します。

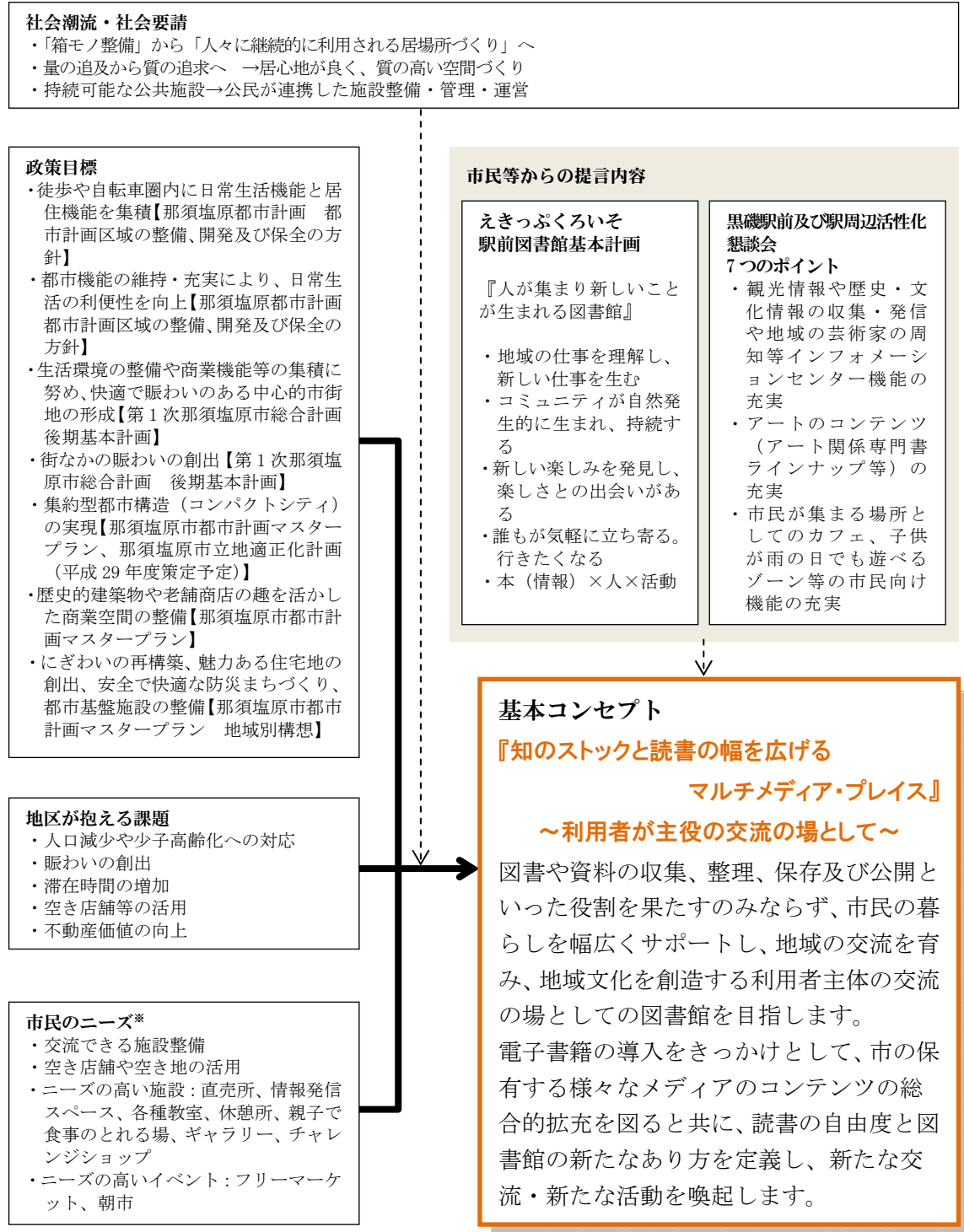


えきっぷくろいそ駅前図書館基本計画の概要

2. 施設の基本的考え方

2-1. 基本コンセプト

社会潮流・社会要請、市の政策目標、地区が抱える課題、市民のニーズに加え、1-3 で整理した市民等からの提言内容を踏まえ、(仮称) 駅前図書館の基本コンセプトを以下の通り整理します。



黒磯駅前商店街アンケート（平成24年度）、来街者インタビュー調査（平成25年度）に基づく

2-2. 基本方針

2-1 で示した基本コンセプトを実現するために、以下の基本方針に基づき、施設整備を推進します。

■利用者ターゲット

児童・青少年から子育て世代、高齢者まで市内広域の市民を利用のターゲットとして考えます。当初は、デジタルコンテンツに慣れ親しんだ世代の利用が増えることが想定されますが、デバイス（端末・機器）の利用方法のレクチャー等のソフト対策やデジタルコンテンツの更なる浸透、質の高いくつろぎの空間としての評判の拡散等を通じて、利用世代の拡大を図ります。新しい姿の図書館に引き寄せられる観光客や視察客の集客も期待します。

■基本方針

利用者が主役である図書館

時代の流れとともに、図書館に求められるものはハード、ソフトの両面から大きく変化してきていますが、図書館のサービスの根幹は、「利用者が主役」であることに変わることはありません。

管理に主眼を置いた機能主義的な図書館ではなく、障害のある人々や高齢者、妊婦等、利用者の誰もが利用しやすく、求める情報や活動の機会を的確に得ることができる、自由度の高い図書館を目指します。

○デジタル・ライブラリーによる半永久的な知のストック集積

電子書籍の普及に対応し、省スペースで半永久的な知のストックを収集し、公開します。クラウド型のシステムの導入を検討し、図書館外からも24時間365日アクセス可能な新しい図書館の先導的施設を目指します。紙媒体の書籍と電子媒体の書籍の統合管理についても、積極的な検討を行います。

○既存館では対応できない蔵書バラエティの拡充

電子書籍化されにくく、既存図書館の蔵書能力としても弱い、専門書や音声・映像資料を含むマルチメディアコンテンツを充実させ、市全体の蔵書バラエティの拡充を図ります。

○型にしばられない多様な読書環境の提供

電子書籍の導入に伴い生まれた空間的余地を活用して、静かな環境から賑やかな環境、開放的な環境からプライベートな環境等、様々なくつろぎ方の可能性を提示します。

○子ども向けサービスの充実

絵本や児童書の充実、読み聞かせサービスなど、子ども向けのコンテンツの拡充により、子育て世代が利用しやすい環境を整えるとともに、学習参考書やライトノベル等を充実させ、学習スペース等を用意することで、小・中・高校生が日常的に集う環境を創出します。

○本の楽しさと巡り合う機会の提供

テーマ性を持って、定期的に企画本棚を入れ替えること等により、これまでの分類では見えなかった図書の魅力を引き出す等、読書の楽しさと巡り合う機会を提供します。

○地域を支える情報拠点としての暮らしの支援

様々な分野の情報が集積しているという図書館の特性を最大限活かし、地域の課題や市民の日々の暮らしを幅広くサポートする取り組みを行います。

○出会い、交流し、地域文化を創造する場の提供

性別や世代、地域を超えて様々な人々と出会い、交流し、学習の機会をもつ場所を提供することを通じて、新たな地域文化の創造を呼び起こします。

○アートステーションとしての機能展開

地域にゆかりのある芸術家の作品展示を行い、初めて作品に触れる市民にもわかりやすく解説等を行うことで、市民が芸術を身近に感じてもらえるような機会を提供します。

3. 施設計画の考え方

3-1. 導入機能

2-2で示した基本方針を具現化するため、(仮称)駅前図書館に導入する蔵書数及び機能としては、下表のようなものを想定しています。

導入機能と空間のデザインは、非常に密接する関係であるため、基本設計・実施設計においては、下表に挙げる機能に限定しすぎることなく、地域ニーズと空間構成、そしてそこで起こる実際の活動を考慮しながら、柔軟に考えていくことが必要です。

紙媒体書籍の蔵書に関する前提条件(想定)

項目		割合	冊数
開架図書		50%	75,000冊
閉架図書	集密書架	40%	60,000冊
	固定書架	10%	15,000冊
合計			150,000冊

導入機能

導入機能		解説	面積	
マルチメディア・プレイス	開架部門	一般書籍コーナー	・電子書籍化されにくく、既存図書館の蔵書能力としても弱い、専門書等の充実を図る	
		企画本棚コーナー	・司書のセレクトによる企画的な本棚を配置 ・市民に棚を貸し出し、セレクトしてもらうことも考えられる	
		児童図書コーナー	・児童用図書開架スペース、絵本などの読み聞かせコーナー、紙芝居や人形劇ができるスペース	
		青少年図書コーナー	・中高生のためのヤングアダルト図書コーナー	
		音声・映像コーナー	・音楽CDや映像DVD等を充実 ・ミニシアターや視聴覚ブースを設けることも考えられる	
		新聞・雑誌コーナー	・各種新聞や雑誌の最新号等を配置	
		郷土資料コーナー	・黒磯駅周辺のまちの歴史や鉄道史、那須の開拓史等に関する資料を収集、展示、公開	
		閲覧スペース	・電子書籍の導入により、閲覧スペースを充実(可動椅子、固定椅子、ソファ、座敷、屋外等、様々なバリエーションを持たせる)	
		PCコーナー	・学生やビジネス客等の集客も見据える ・国会図書館等との連携を図り、デジタル化資料送信サービスを利用可能な端末を用意	

導入機能

導入機能		解説	面積 (㎡)
マルチ メディア・プ レイス	バックヤ ード部門	閉架書庫	・集密書架と固定書架あわせて、75,000冊の図書を収容
		事務作業 スペース等	・事務室、作業室、配架予定資料荷ほどこき室、サーバー室、印刷室、休憩室、ロッカールーム、給湯室等を設置 ・従業員15名前後を想定
	キッズスペース	・児童書や育児関連の図書開架スペースに隣接して、プレイルーム等を設置 ・キッズスペースに隣接して、キッズトイレの配置も検討 ・見守りボランティアの配置も検討	
	学習室	・小中高生等向けの学習室	
	サービスカウンター	・登録受付、貸出、返却、読書案内、リクエスト受付、蔵書検索などの業務を実施 ・図書館機能が位置する各階に設置（各カウンターの規模については、要検討） ・レファレンスコーナーとの連携に配慮 ・館長席を設置することも検討	
	レファレンスコーナー	・児童・生徒の調べ学習の支援、市民の調査研究や地域資料の利用に向けた支援	
多目的ホール		・発表会や講演会等での利用の他、図書館関連も含む各種イベント等でも利用することができる多目的なホール ・100席程度（座席及びステージは可動式）の座席数を想定	150㎡程度
展示スペース		・地域にゆかりのある芸術家の作品等の展示空間（多数の来館者が鑑賞できるような展示方法に配慮する） ・展示品は絵画、写真、彫刻、オブジェ等で、壁掛け（最大100cm角程度）又は展示台（最大50cm角程度）等の展示スタイルで計5点程度を想定。なお、収蔵庫の設置予定なし。デジタルアートの展開も想定 （参考：（仮称）まちなか交流センター内の展示ギャラリーは、那須塩原市の特産品の展示や市民の文化活動の発表の場として活用）	
会議室・研修室		・公開講座やセミナー、学習活動など小人数での利用に活用可能な会議スペース（間仕切り等に柔軟性を持たせる） （参考：（仮称）まちなか交流センター内の会議室・研修室は、地域の会合や各種教室等で柔軟に活用可能な場として活用）	120㎡程度

導入機能

導入機能	解 説	面積 (㎡)
行政窓口	<ul style="list-style-type: none"> ワンストップ窓口として 12～15 名程度の職員を配置 	180 ㎡程度
カフェ+ショップ	<ul style="list-style-type: none"> 読書をしながら気楽に時間を過ごすことのできるカフェ、赤ちゃん・子ども連れでも気兼ねなく食事ができる軽食レストラン、図書館に更に本の賑わいをプラスするブックショップ、読書グッズを販売するライブラリーショップ等 	100 ㎡程度
防災倉庫	<ul style="list-style-type: none"> 災害に備えた用具やイベントのための備品を保管 	
交番	<ul style="list-style-type: none"> 現在、西口広場に面して立地している施設を合築 現在は 1 階を相談窓口機能として、2 階を管理機能(更衣室・仮眠室等)として利用 	100 ㎡程度 (現状と同等規模)
東野交通事務所	<ul style="list-style-type: none"> 現在、西口広場に面して立地している施設を合築 現在は 1 階をバス利用者のための機能等として、2 階を管理機能(会議室・休憩室等)として利用 	130 ㎡程度 (現状と同等規模)

3-2. 整備に当たっての前提条件及び配慮事項

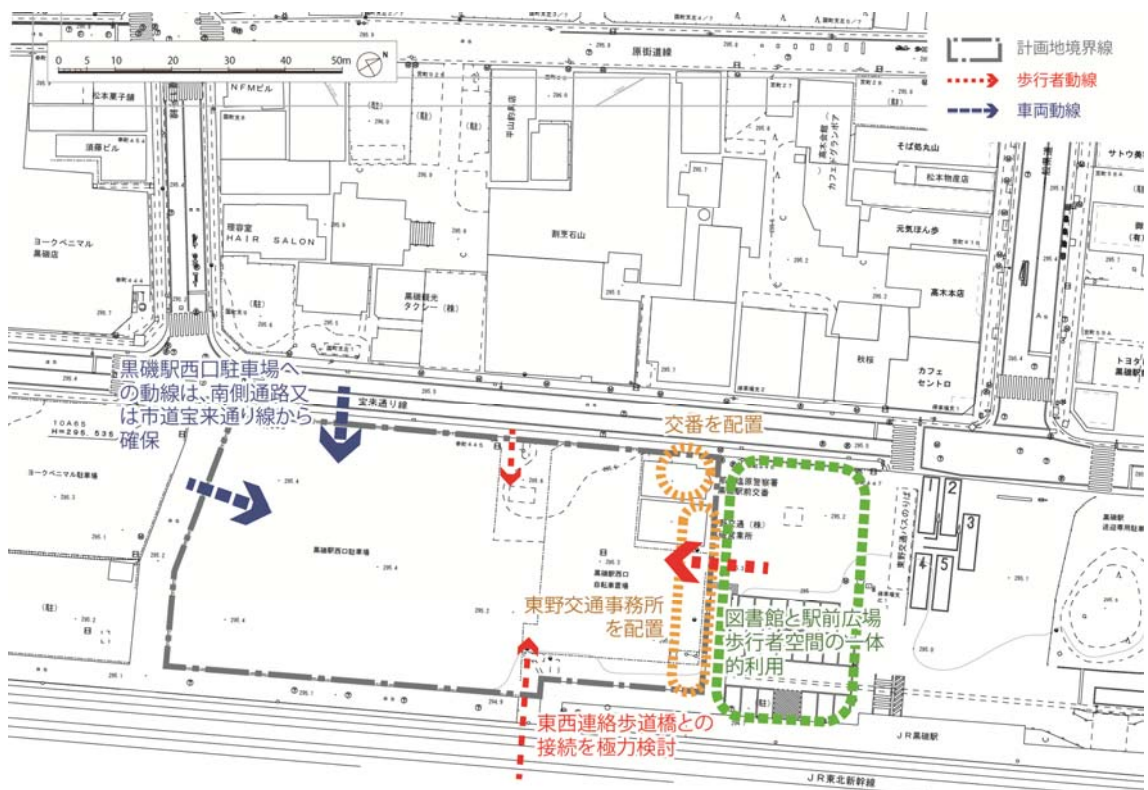
(仮称) 駅前図書館の整備に当たっての、前提条件及び配慮事項を以下に示します。

施設整備の前提条件及び配慮事項

項目	前提条件及び配慮事項
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地とヨークベニマル駐車場の間の JR 東日本所有通路は、通行可能とする。 ・別途バリアフリー化工事が予定されている東西連絡通路との接続を極力検討すること。その際、新設されるエレベーターから JR 黒磯駅までのバリアフリー動線の確保には留意すること。 ・特に建築物のボリューム感等、周辺の街並みとの調和に留意する。 ・全ての人に優しく利用しやすいユニバーサルデザインによるバリアフリーとする。 ・建築物の基本的性能・機能などについて、所要の性能や品質、長期的な耐用性、維持管理の容易性、ライフサイクルコストなどの観点について十分検討し、優れた品質の施設となるよう配慮する。
(仮称) 駅前図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の床面積は 4,500 m²程度とする。 ・市が別途依頼を予定している図書館の専門アドバイザー等と十分に協議・調整を行いながら、施設設計を行う。 ・メインエントランスは、西口広場側に確保すると共に、西口広場の歩行者空間との一体的な利用についても配慮する。 ・サブエントランスは、市道宝来通り線側に設ける。 ・十分に明るく、見通しがきき、ゆったりとした中に適度な賑わいがある施設とする。 ・十分な広さの閲覧スペースを確保すると共に、型にしばられない多様で居心地の良い読書環境を提供する。 ・学校図書室や他の分室等との連携に配慮し、図書配送サービスにも対応できる施設となるよう配慮する。 ・セキュリティを考慮しつつも、図書館機能とその他の機能の連携に十分配慮すると共に、(仮称) まちなか交流センターやその他の黒磯駅周辺の施設との連携についても配慮する。 ・一般の方が 24 時間利用可能な公衆トイレは、図書館施設内又は西口広場内の利用者の利便性が高い場所に配置する。 ・省エネ・省資源・自然エネルギーの活用等、環境保全型の施設となるよう配慮する。
黒磯駅西口駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称) 駅前図書館計画地内に確保する。 ・平面駐車場として 30~40 台程度の駐車台数を確保する。 施設駐車場としての不足台数分については、南側に隣接する民間駐車場の共用利用等を市の方で検討している。 ・駐車場への動線は、南側通路又は市道宝来通り線から確保する。
黒磯駅西口駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称) 駅前図書館計画地内に確保する。 ・250 台以上の自転車駐輪台数と 30 台以上の二輪車駐輪台数を確保する。 ・JR 黒磯駅への動線に配慮した施設配置とする。

施設整備の前提条件及び配慮事項

項目	前提条件及び配慮事項
交番	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交番は、計画地の北西角の見通しが効く場所に配置し、(仮称) 駅前図書館と合築する。 ・ 2 台分の駐車スペースを確保する (計画地内でも、西口広場内でも構わない)。 ・ 相談窓口機能は 1 階に配置することが必要であるが、管理機能(更衣室・仮眠室等)は上層階への配置でも構わない。
東野交通事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東野交通の事務所は、西口広場に面して配置し、(仮称) 駅前図書館と合築する。 ・ バス利用者のための機能は 1 階に配置することが必要であるが、管理機能(会議室・休憩室等)は上層階への配置でも構わない。
整備プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて、ワークショップや意見交換会を開催する等、施設の担い手や使い手となる住民や地域団体等の意見を踏まえて、施設設計を行う。



敷地条件図

3-3. 整備スケジュール（予定）

（仮称）駅前図書館の整備スケジュール（予定）を以下に示します。

- ・基本設計 : 平成 28 年 4 月～平成 28 年 10 月
- ・実施設計 : 平成 28 年 11 月～平成 29 年 6 月
- ・工 事 : 平成 29 年 9 月～平成 31 年 3 月
- ・開 館 : 平成 31 年 10 月